



名古屋いのちの電話

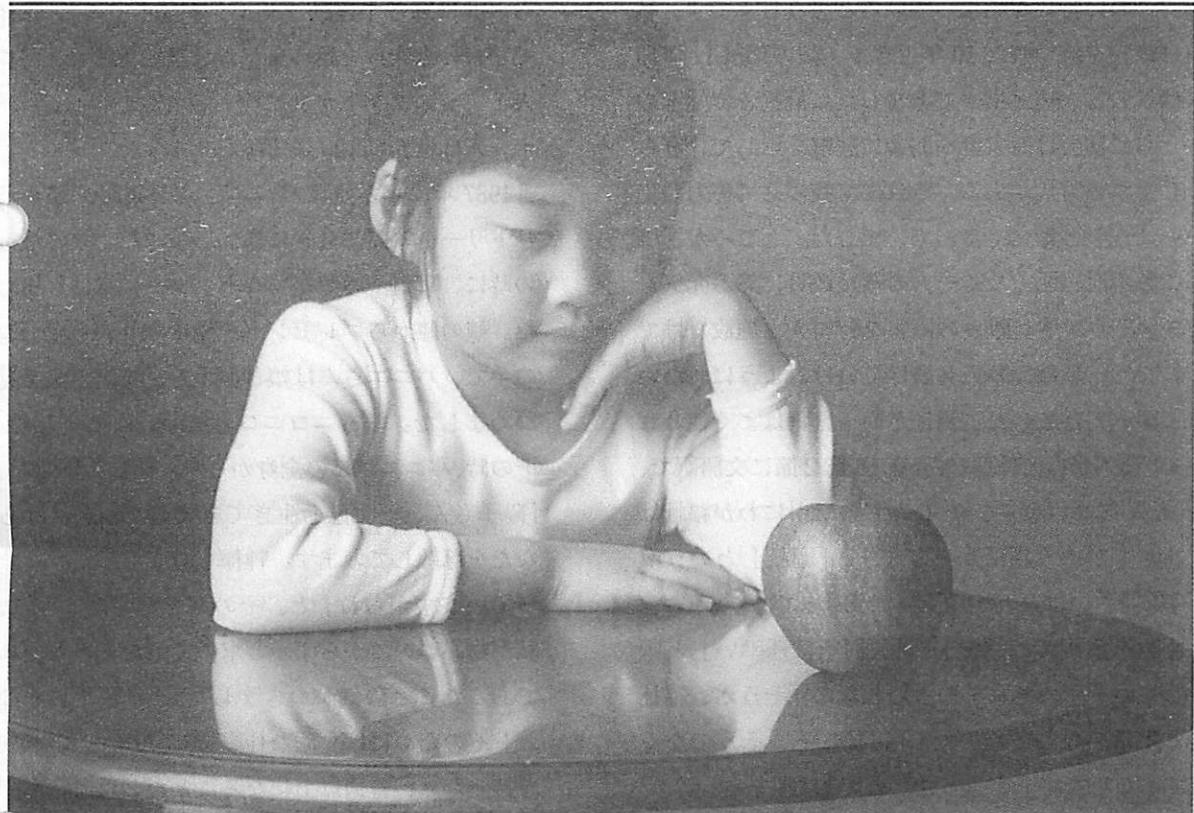


写真 中島 初男

りんごをひとつ
ここにおくと
この大きさは
このりんごだけで
いっぱいだ
りんごがひとつ
ここにある
ほかには
なんにもない
ああここで
あることと
ないことが
まぶしいように
びつたりだ

りんごの
この大きさは
このりんごだけで
いっぱいだ
りんごがひとつ
ここにある
ほかには
なんにもない
ああここで
あることと
ないことが
まぶしいように
びつたりだ

りんご
まど・みちお

「まど・みちお詩集」より



共に生かされる道

名古屋堀川伝道所牧師 島 しづ子

こわい時代が始まっていると思う日々です。私は障害を持つ娘と16年生きて、娘の死後11年間は娘の友人達と生きてきました。最近まで「そのうちに社会は障害者や弱者に理解を示して、暮らしがやすい時代が来る。それまで我慢して努力していこう」と考えて歩んでいました。ところが、ここ数年間、悪くなる一方の福祉政策に怒る元気も失いそうです。重度の障害を持つ人も施設だけではなく、地域で暮らし続けていけるようにしたいと願ってきました。福祉という言葉はよく使われていますが、旧約聖書詩篇16篇2節に文語訳で、「なんちはわが主なり なんちのほかにわが福祉はなし」という箇所があります。「福祉」という漢字に「さいはひ」というかながふってありました。原語を漢訳では「福」、新共同訳は「幸い」と訳しています。それを知ったときに「そうか、福祉とは幸いなことなのだ」「福祉こそ、そうでなくてはならない」と思ったことでした。

障害を持つ娘と生きる中で感じたことは、健気に生きている娘なのに、周囲から軽んじられる。そういう娘といふと、自分も軽んじられるということでした。そういう価値観に傷ついてきた年月の末にある出会いが与えられました。ラルシユ・ホームの創設者ジャン・バニエさんとの出会いでした。バニエさんは今から41年前にフランスのトローリー村で知的障害を持つ人と家族的に暮らし始めました。簡単ではありませんでした。彼らがよくパニックを起こしたからです。そのパニックは彼らの「私だって人間だ。ばかにするな」という叫びであると聴き取ったバニエさんは、彼

らと共に暮らす運動「ラルシユ・ホーム」(仏語で箱舟の意味)を始めました。現在、障害を持つ人とアシスタントが共に少人数で住むラルシユ・ホームは世界に120箇所あります。

1987年、私と娘はバニエさんが講師を務めるリトリート(黙想会)に参加しました。その最後の時に、車椅子の娘がプレゼンターに選ばれました。娘の膝からプレゼントを受け取り、もう一つの手で、バニエさんは娘と握手し、笑顔で娘を見つめました。娘もニコニコと笑顔になりました。その時、バニエさんの全身から声が聞こえました。「陽子さん、一生懸命生きてきましたね。私はあなたを尊敬しています。神様もあなたを大事に思っていますからね」と。その声を聴いたときに、私が物心ついてからずっと求めていたものがそれであったことに気がつきました。「尊敬されること」そのためには立派な仕事をしたり、いい家族を持ったり、普通以上になることだと思い込んでがんばっていました。しかし、軽んじられるばかりの娘と私を「尊敬している」とバニエさんが扱って下さったとき、私は解放されました。人間やいのちに優劣をつける考え方の間違いに気がついたのです。私ばかりでなく、多くの人たちがその価値観に縛られ、不自由になっていることにも気がつきました。

ラルシユ・ホームがはじまって41年、かつて知的障害者を閉じ込めていた精神病院はラルシユ・ホームに変わっています。ラルシユ・ホームで暮らす人々は人間らしい生活をし、顔には誇りが満ちています。私は名古屋にもラルシユ・ホ

ームを創りたいと願って障害を持つ方とアシスタントの女性二人と4人で暮らしています。20代、30代の女性達です。50代の私とは生活体験が全く違います。その家を始める前に、ギャリさん(バニエさんと一緒にラルシュ・ホームを創ってきた方)が、アドバイスを下さいました。「島さん、どうしてこんなやり方をするのか、どうしてそんな考え方をするのか、全く理解できない。価値観の違う人と仕事をしてください」と。価値観が違うと私たちは分裂し、別れます。驚く私に彼は続けました。「私たちは人生の終わりまで成長しなければなりませんから」

この意味深い言葉は、私にとっても皆さんにとっても有益だと思います。「この人さえいなければスムーズに行くのに」と思いながら、いやいや価値観が違うこの人と如何に一緒に仕事をしたらいいのか、どうやって暮らすのか。その努力や葛藤の末に、人生に深みや味わいが増したと思います。とは言え、共同生活は難しいことです。ラルシュ・ホームも天国ではありません。むしろ、修羅場とも言えます。何故なら、一人でいたら、自分を「いい人」と、思っていられるのに、誰かと共にいると、相手をゆるせない自分、相手への暴力性、怒りなどと向き合はせられるからです。落ち込む私たちに、バニエさんたちは言います。「自分の中の弱さを発見することは大事なことだ」と。互いに近づき、逃げ出さないで自分の問題や共に暮らす工夫を続けるとき、自分の狭い枠からしづつ解放されるのを味わいます。また趣味、交際などなど、一人では決して味わえない体験をします。これがラルシュ・ホームの素晴らしいことの一つでしょう。

どこのラルシュ・ホームにも問題がありますが、リーダーたちはそれはいいことだと言います。何故なら、問題というのは誰かが「暮らしにくい」と言っているのだから、その解決に努力すること

が大事なことで、問題を通して問題が明らかになるのだから、祝福だというのです。一番問題のは、問題を無視することだと言います。

ラルシュ・ホームの知恵は、実は人間関係の難しさを感じているすべての人に役立つと思います。「仕事は好きだけど、人間関係が難しくて仕事を辞めたい」という相談をよく受けます。「人間関係」は無いほうがいいことではなくて、私たちは、実は「人間関係という仕事」をするように造られているのではないでしょうか。その仕事こそ、私たちが人間になっていく、豊かさ、深み、味わいというものを与えられていく源ではないかと思います。

私は娘や娘の友人から「私という存在を歓迎してくれる」というプレゼントを受けてきました。娘は16歳で天国に還るまで、ベッドに横たわりながら、来る人を笑顔で迎えて歓迎しました。障害の故に暮らしにくい日々を重ねながら、「人を歓迎する」という仕事をした娘を、越えることの出来ない人生の先輩のように思います。娘の友人達も互いを歓迎し合って暮らしています。多分、愛されていることを充分に味わったからそうすることが出来るのだと思います。そういう人々によって励まされてきました。助けるはずの私たちが、弱さを隠しようも無く生きている人たちから励まされるのは不思議なことです。今、弱肉強食が世界的規模で行われ、日本の福祉も悪くなる一方です。誰もが生き難くなっています。もし、世界が相手を支配するために力を使うのではなく、弱い人こそ大事にし、尊敬し、彼らの存在に聴くことが出来たら、世界は誰にとっても息がしやすい場所となるでしょう。

(名古屋いのちの電話 継続研修講師)

不登校児童・生徒への訪問支援について

愛知教育大学・教育実践総合センター 生 島 博 之

最近の新聞報道によれば、小学生の校内暴力が2年連続で過去最高を更新しており、前年度より18%増加しているとのことである。そして、対教師暴力は33%増加しており、現場の教師は、「統計に出た数字は氷山の一角で、ささいなことに腹を立ててキレる子どもたちへの危機感が強まっていいる」等とコメントしている。

そして、平成16年には、佐世保で小学校6年生女児が同じクラスの女友達を殺害するという事件が起こっており、おんぶごっこで「重い」と言わされたことやインターネットでのトラブルが誘因とも言われている。(インターネットや携帯電話によるトラブルは、いじめ、援助交際、集団自殺としては、犯罪への誘惑でいっぱいであるにもかかわらず野放しの状態であると思われる。それ故携帯電話が小学生にまで普及してきている現状を考えると、モラルの教育が緊急の課題であるが、一方で、これらの児童・生徒が、困った時に気軽に相談できるようにインターネットを通じて、いのちの電話などの専門相談機関に関する広報活動を積極的に進めることも必要であると思われる。実際、不登校の児童や生徒の多くは、インターネットで同じ悩みをかかえる者のサイトに頻繁にアクセスしているのが現状である)

一方、教育現場においては、リストカットをするものが中学生まで低年齢化しており、拒食(軽い身体を理想化する)傾向のある児童・生徒も増加しているとも言われている。

いのちの電話は、自殺への危機支援や予防という観点から活動を続けており、いのちの『重さ』

にいつも直面しているのであるが、世の中は、電気製品(テレビ、ビデオ、デジタルカメラ、携帯電話など)の軽量化が評価されていることに象徴されるように、重いものは使い捨てられる運命にある。だが、このことに疑問を抱かれることは少ない。また、重い荷物を持っての遠足などは嫌れる傾向にある。そして、人間関係においても、希薄化し、表層化がすんでいる。

このように『軽さ』が尊重される状況の中で、衝動性のコントロールが苦手な子どもたちが増加していると思われるし、そして、このようなキレイやすい子どもに取り巻かれる状況とパラレルに、友達関係などが苦手で不登校になる児童・生徒の数は増加し、「横ばい」とは言うものの依然として12万人という状況が続いている。そのため、文部科学省は、平成7年度からスクールカウンセラー(臨床心理士)を学校に導入し、その後、平成10年度からは、心の教室相談員を配置してきている。また、適応指導教室を設置し地元校にわなくともよい少人数教室を理念として教育活動を行っている。

一方、学校にまったく登校できない児童・生徒に対しては、児童相談所が平成3年度から始めたメンタルフレンドによる訪問支援がある。(メンタルフレンド事業のルーツは、兄や姉のような存在の青年が、非行傾向の子どもたちと一緒に遊んだり、悩みの相談にのったりするBBSというボランティア組織にあると言われているが、直接的には、岡山県中央児童相談所が相談にきた不登校の子どもたちと交流するためにアルバイトの大学

生を活用し、その効果が出たことから発展したことにある）その後、各県の教育委員会もこれに習い、「ふれ愛フレンド」「ホームフレンド」「ユアフレンド」「チアフレンド」「さわやかフレンド」などの名称で大学生ボランティアを組織し、成果をあげようと努力している。

確かに、不登校児童・生徒に対しては、教師－不登校児童・生徒といった＜縦の関係＞でなく、お兄さん・お姉さん的な大学生と不登校児童・生徒といった＜斜めの関係＞が有効とされている。しかし、このような訪問支援は慎重になされる必要があるし、特に、その大学生に対するスーパービジョンが必要不可欠である。

そこで、弘前大学教育学部ではこの問題に正面から取り組み、適応指導教室の不登校児童・生徒に対する『ふれあい支援活動』を希望する学生に対して、まず、「不登校児童・生徒に対する本格的な教育・心理臨床活動である」ことを説明し、その適性を把握するために選抜試験とエゴグラム（心理テスト）を実施している。

選抜試験では、「適応指導教室に派遣されて日が浅いうち」という時期設定で、3つの状況下における生徒からの訴えや語りかけの言葉を提示し、それに対してどう言語的な応答をするのかを書かせ、「共感性+尊敬的態度」「純粹性」「自己開示性」の3尺度でチェックしている。

次に、エゴグラムを実施し、「不登校児童・生徒と関わる『素の自分』が、自他を否定し他者に不適応をもたらすような自我であったり、投影過剰で他者の想いを読み取れない自我であっては逆効果である。そこで健全な治療的自我を持つ者を選抜しなければならない」という理念から、＜健全なパターンからの逸脱度＞を測定し、その数値が小さい順に『ふれあい支援活動』への許可を与えている。（なお、補足すると、これに先立ち、教職必修科目「生徒指導Ⅰ」「生徒指導Ⅱ」を受

講済みの3年生以上の学生を対象としている）

そして、適性を持つと判定された学生に対しては、事前指導はもちろんのこと、中間指導と個人スーパービジョンを教員が実施している。

中間指導では、適応指導教室での生徒と学生の関係についての事例シート（下記は一例）を配布し、事例中の生徒の問い合わせにどう応答するかを書いてもらい、個々の学生の応答について解説しており、個人スーパービジョンにおいては、児童・生徒との関係の作り方や児童・生徒理解の仕方、そして、学生自身の問題点などについて、担当教員より継続的な指導を受けている。

このように、適応指導教室での『ふれあい支援活動』において配慮がなされていることから考えると、不登校児童・生徒への訪問支援においてはこれ以上の手厚い指導が重要であると考えられるのである。なお、このような研修やスーパービジョンは、いのちの電話の相談員に対しても同様に重要である。

（名古屋いのちの電話 スーパーバイザー）

事例

適応指導教室に派遣され、1か月半が経過した。担当となった不登校生徒Aとどうにか会話らしい会話ができるようになった。そのような折、あなたは生徒Aから「今度発表する劇のリーダーに選ばれたんだ。多数決で決まったけど、本当はみんながやりたくないから僕に押しつけたんだ…。みんなをまとめていく自信なんてない。どうしたらいいんだろう…」と相談された。この生徒の問い合わせにあなたは、どのように応答するか。

（平成15年度弘前大学教育学部

フレンドシップ事業報告書 2004年よりの抜粋）

ご援助ありがとうございます

2005年6月より9月末日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共に報告を申し上げます。(順不同・敬称略)

なお、上記期間内に何度もご寄付くださった方もお名前は1回にさせていただいております。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会
理事長 野村 純一
財務委員会

賛助会員 A

前田 豊子	松岡 文庸	田 喜久雄	藤田 省亮	大宮 鳥之	子弘枝
水谷 宣子	岡田 郁	監爾正成	二恵児	原原柳	覚夫
落合 亨子	木川 双々	従信厚	嗣輝	小笠原	子子
井坂 洋子	本川 雄	精之助	孝徹	小川村	敏陽
朽久保 澄子	木井 井	潤和	正ト	柳田	訓
白田 治子	長柿 本	あさ	坂伊	下	
山本 秀樹	大佐 藤	カトリック蟹江教会			
馬上典久・貴美子					

賛助会員 B

村瀬 政子	桜井 房	武登喜	口岡 溝森	田藤川	石加森
豊島 三伸子	青諷栗	二子代	藤野 五菅	木田 青飯	まり子
柴田 素宣子	木訪田	幸正	岸神	田山 寿也	信寿
森子 紀満子	木久	摠みはる	石岩 田	田山 千寿子	和美
金山 佳子	橋	乃			

賛助会員 C

服部 由美	片松	山田	悦一	子路	林前	温田	江田	阪岡	田敏	子	近藤	藤田	近伊	衛助	
近藤 美衛															

近畿・東海ブロック会の報告

全国に49あるいのちの電話が、年に一度大阪で開かれる事務局長会議とは別に、それぞれの近隣センター毎に集まってブロック会を開いています。主に、各センターの近況報告と、親睦が目的です。名古屋は「近畿・東海ブロック」に属し、前回名古屋でブロック会を開いたのは、2000年2月のことでした。今回は4年前に開局した三重と、これまで関東ブロックに属していた浜松、静岡に加え日本いのちの電話連盟から事務局長の岡本さんが参加し、総勢20名の方々が集まって、8月20日に「近畿・東海ブロック会」が開催されました。会の前半の報告会では、一番古い開局32年の関西を初め、25年以上の奈良、京都でも、4年目の三重いのちの電話でも、抱えている問題は似たり寄ったりで、新しい相談員ボランティアの募集、資金集め、電話相談が常に滞りなく確保できるかといったことなどが報告されました。

その後、みこころセンターに会場を移して、成田善弘氏の講演に入りました。「転移と逆転移」という演題で、約55名の聴衆は熱心に聞き入り、終わったあとの質疑応答にも積極的に参加し、有意義な時間を過ごしました。

その後1時間半あまり、再びセンターに戻って話しあいました。ここでの中心問題は、いのちの電話の今後を課題に、主に電話相談事業の方向性ということで考えました。時代とともに、電話相談の内容も変化し、利用者も変わってきていること、更に各地で広まっている、専門分野での電話相談ボランティアといのちの電話との関わりのなかで、今「いのちの電話」がどう進んでいくかが議論の焦点になりました。結論としては、やはり原点に戻って「自殺予防」にどう対応していくかが重要であるという意見が出されました。受け手としてはまず自殺防止を念頭に、一本一本の電話を大切にしなければという思いを強くしました。

(名古屋いのちの電話事務局長 加藤省吾)

光子志弘雄一浩夫子	正富敏国達鑛敏雅	城木佐木山田川澤孝一	岩鈴岩鈴松岩小西伊藤孝一
枝子代きり稔里子子	静た和みゆみ登律良	綾晋和法一妙和次	出下田塚野上林木谷
矢平鈴加早尾鈴早田	野田木藤川関村川中	柱川田野西村見尾口	中水三加上田小山細
子介子子雄子良潔雄	芳タ重悦昌直	典子一子子美厚之子	子真子武よ子子代子
枝子代きり稔里子子	浩塩	芳タ重悦昌直	智淳き節晃敦智津
静た和みゆみ登律良	出下田塚野上林木谷	典子一子子美厚之子	出野輪藤田中林田田
矢平鈴加早尾鈴早田	小山太飯平井小鈴中	芳タ重悦昌直	中水三加上田小山細

寄付金	子邦正恵夫子き正美子る也	子文い靖幸昭瑞重純壽ひろ博訓優	子多佳陽孝厚洋淳玲直宏	子野安原森佐安鈴風市伊橋
桜内松豊	陽正勝理幹鋪みゆみ康江美惠て拓也	美子男矢寿子夫子秋潤成男人	文さき橋木馬藤須川美野野塚下	安口原田川藤藤木岡川藤本
中加湯豊土守藤朝倉夏雄・建子	伊永橋大棍吉三吉三長望山高橋	智洋良一郁敏佳一千幸勝	松舟見相五高早新水久大浜	近楓田高加松武武櫻野渡竹
		千年	小知和	ベルの会
		勝	優	

日本福音ルーテル希望教会	日本基督教団愛知西地区教会婦人会連合	日本基督教団愛北教会
西福寺	本遠寺	日本基督教団鳴海教会婦人会
(株)三愛	(株)オチアイネクサス	日本基督教団南山教会
(株)河悦	名証取引参加者協会	(株)杉浦製作所
(株)サンゲツ	新明工業(株)	岡谷鋼機(株)
(株)前田鉄工所	薬師寺	日本ガイシ(株)
		大橋鉄工(株)
		矢作建設工業(株)
		杉山工業(株)
		小島プレス工業(株)
		(株)NTT クオリス
		(株)名古屋中村法人会

賛助寄付

(株)河悦	名証取引参加者協会	(株)杉浦製作所	大橋鉄工(株)	小島プレス工業(株)
(株)サンゲツ	新明工業(株)	岡谷鋼機(株)	矢作建設工業(株)	(株)NTT クオリス
(株)前田鉄工所	薬師寺	日本ガイシ(株)	杉山工業(株)	(株)名古屋中村法人会

点滴

新聞やテレビのニュースを見るたびに、どこかの国での紛争やテロを見て悲しくなります。どうして、どうして同じ地球上に住む人間なのに、そんなに喧嘩合い憎しみ合わなければならないのだろう。少し位考方が違っても宗教が違っても、民族が違っても、皆みんな同じ人間なのに。

私の詠んだ歌に「海老が掘る穴に真鯛は同居して掘る間見張りの役をうけもつ」

東京湾のヘドロの海に住む魚類の鯛と甲殻類の海老が、仲良く住み生を育み、小さいながら必死に生きている。生きる知恵のなせる業だと思い驚き感心しています。

同じ地球の人間同士助け合い、互いに愛し合えば地球上穏やかに住むことが出来るのにと溜め息しつつ、今日もニュースに目が釘づけになっています。

人間は何故に憎むか考える葦ゆえなるか思考とは何

絡まりし糸を切らずに解くように紛争止める知恵無きものか

人心の妬み憎しみ所有欲無くして「愛」ぞ争の無し

お互に譲り助け合う心持ち地球大事に争の無し

(C.H.)

名古屋いのちの電話チャリティーコンサート2005

tomonori sato plays

トランペットの午後

11月23日(祝) 15:00 開演(14:30開場)

会場 名古屋中央教会(地下鉄「栄」5番出口すぐ)

入場料 2,000円(当日券 2,500円)



あなたの心の苦しさを、お話し下さい。

自殺予防 いのちの電話

主催: 社会福祉法人いのちの電話

後援: 厚生労働省 <http://find-jip/> 日本いのちの電話連盟

0120-738-556 ココロ
12月1日(木) 0:00より 12月7日(水) 24:00まで (24時間無料です)

クリスマス・年末 特別寄付のお願い

本年もまもなく、クリスマス・年末の季節をむかえようとしています。例年この時期には「いのちの電話」の活動のために、特別寄付金を募っております。

今年度も何卒よろしくご協力をお願いいたします。

社会福祉法人として寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用ください。

送金先: 郵便振替口座 00810-8-53758

UFJ銀行大津町支店 477029

(普通預金)

名義先 社会福祉法人

愛知いのちの電話協会

— 友の会便り —

○毎月第3水曜日(午前11時より)に友の会の集いを開いています。時間のある方はどうぞお出かけ下さい。

○昨年に続き今年の親睦旅行は「昔懐かしいSL列車の旅」を企画致しました。多数のご参加をお待ちしています。

日 時: 平成17年11月17日(木) 8:00発

内 容: 大井川SL列車とアプト式鉄道の旅

友の会も発足以来少しづつ前進して参りました。会員の皆様のご意見を多くいただき、よりよい会としていきたいと願っています。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会
名古屋いのちの電話

2005年秋

〒461-8691 名古屋東郵便局 私書箱第257号

2005年11月1日発行

事務局 ☎ 052-971-5181

郵便振替口座 00810-8-53758

発行人 野村 純一

相談電話 ☎ 052-971-4343

UFJ銀行大津町支店(普) 477029

編集人 広報委員会

携帯相談電話 NTT ドコモ東海「# 9556」